

平成 28 年度第 1 回経営会議概要

- 1 開催日時：平成 28 年 7 月 8 日（水）9:00～9:45
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり
（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題 1 「経常的支出の総点検及び大規模臨時的経費の事前確認」（サマープレビュー）の実施について

●下村課長【財政課】（資料 1-1、1-2 に基づき説明）

経常的支出の増加及び臨時一般財源の減少に伴い、短期的には財源不足の状況をいかに解消し、どのように平成 29 年度予算編成を乗り切るか、中期的には歳出規模を経常的な歳入の範囲内に抑えることができるような財政構造をいかに実現するかが課題となっている。

「持続可能な財政運営の維持」を実現するため、財政健全化に向けた集中取組（3年間）において、歳入に見合った歳出規模への転換をめざすとともに、経常収支比率や実質公債費比率の改善を図ることとする。

このため、経常的支出をはじめとする歳出全般の見直しを行うこととし、平成 29 年度当初予算編成の前段階として「経常的支出の総点検及び大規模臨時的経費の事前確認」（サマープレビュー）」を実施することとしたい。

☆服部地域連携部長

サマープレビューにより予算要求前に廃止・休止・縮小などの見直しを確定するものではない、とのことだが、知事に協議を行ったうえで総務部意見が提示されるのであれば、実質的に確定することとなるのではないかと。予算編成の前倒し作業ということであれば、事務的な聴き取りだけでなく各部の意見を二役に伝える場を設定してほしい。

補助金の見直しも各市町や団体に対して丁寧な説明が必要だが、各部が個別に対応するのは県としての対応が不統一かと思われるので、この作業が全体の予算編成においてどう位置付けられているのか、しっかりと検討してほしい。

また、作業の省力化を図るため、調書の簡素化について検討してほしい。

●嶋田総務部長

予算フレームから考えると、秋の予算編成の開始を待ってから見直しを始めると間に合わない可能性があるため、現時点で見直しをお願いするものである。

調書については、マネジメントシートに記載の内容と重複するのであれば、記載は不要であり、追加する事項がある場合に記載してもらったらい。

知事と各部が意見交換する場を設定することについても検討したい。

☆渡辺廃棄物対策局長

補助金の見直しは、平成 29 年度予算に間に合わせるのであれば、この時点から見直しを始めるのでは遅いのではないかと。住民への周知期間を要する補助金もある。

●嶋田総務部長

今回の補助金の見直しは、平成 15 年度の「県単独補助金の見直し方針」を改めて徹底することが中心となっている。その際も同様であったが、来年度すぐに見直しできないものについては、その翌年度に見直しを行うということも可能である。

☆水谷県土整備部長

資料1-2と中期財政見通しとの関係はどうなっているのか。資料1-2の6頁に記載されている目標は、中期財政見通しの推計Bとは異なるのか。

●嶋田総務部長

中期財政見通しの時点から、新たなデータを反映させたものが今回の資料である。

●紀平総務部副部長

中期財政見通しは財源不足額を記載しているものであり、不足額を解消するための具体的な取組までは記載していない。今回のサマープレビューがその具体策である。

財政状況が本当に厳しい状況であり、平成29年度予算編成に向けて事業の休止等の努力をお願いしたい。また、構造的に生じてきた財源不足もこれまでは臨時財源で対応してきたが、今後はこれも見込めなくなるので構造的な要因を解消すべくご協力をお願いしたい。

☆福井防災対策部長

中長期フレームの見直しはいつ行うのか。

●紀平総務部副部長

現在試算中である。7月中旬頃にある程度の試算が算出できるので、説明する場を設けたい。

☆山口教育長

県民ビジョンで掲げている目標はどうするのか。財源不足を理由に達成できない場合は県民にどのように説明するのか。総務部と戦略企画部でしっかりと検討してほしい。

●紀平総務部副部長

ビジョンで掲げた目標は重要であり、達成しなければならないと考えているが、ビジョンの目標は予算投入を前提とするという整理にはしていない。しかし、事業休止等により県民に大きな影響が出ることもありうるかと思うので、聴き取り等でしっかり把握したい。

●西城戦略企画部長

平成28年度予算編成公表の時点から大きな状況変化が認められない中で、第二次行動計画の目標値を修正するという議論はできないのではないかと考えている。

☆田中環境生活部長

補助金の廃止等は大きな話なので、事務方の議論で終結するのではなく、必ず知事との協議の場を設けてほしい。

●嶋田総務部長

方法を含め検討したい。

☆山口教育長

秋の政策協議との関係はどうなのか。秋の政策協議の財源議論と合わせ、このサマープレビューの議論を行うべきでは。

●西城戦略企画部長

秋の政策協議の中でこのサマープレビューの議論を行うことも考えられる。

議題2 伊勢鉄道の利用促進について

●富永課長【交通政策課】(資料2に基づき説明)

伊勢鉄道については、名古屋と伊勢・鳥羽志摩方面、東紀州地域を結ぶ鉄道網として、県内の鉄道交通体系を維持する役割がある。

このため、県が主体的に関与する鉄道と位置づけ、伊勢鉄道株に県が40%を出資しており、昨年6月からは代表取締役社長に石垣副知事が就任している。

経営面では、「普通列車」「快速みえ」「特急南紀」の運賃収入が、大きな収入源となっている。

とりわけ、「快速みえ」が全運賃収入の6割近くを占め、新幹線への乗換時間が短く、運賃も近鉄特急の2/3で旅費の削減にもつながる。別添のチラシにあるように、「快速みえ得ダネ4回数券」を購入いただければ、さらに安く利用できる。

県庁内で利用いただいてこそ、県民の皆様にご利用いただけるものと思っているので、出張などの際には是非、協力をお願いしたい。

☆水島観光局長

現在の旅費規程では、例えば、通勤で近鉄の四日市駅～津駅で通勤の定期をもらっていると、伊勢鉄道を出張に使った場合、問題が生じるのではないか。その点を改善してもらいたい。

●西城戦略企画部長

その点については、今後、総務部で検討されたい。